信州大学

女子中高生の理系進路選択支援事業

信州夏の学校「わたしもサイエンティスト！」

事業内容

目的

1）女子中高生のサイエンスに対する好奇心と興味を育むとともに，理系進路選択への不安を解消する．

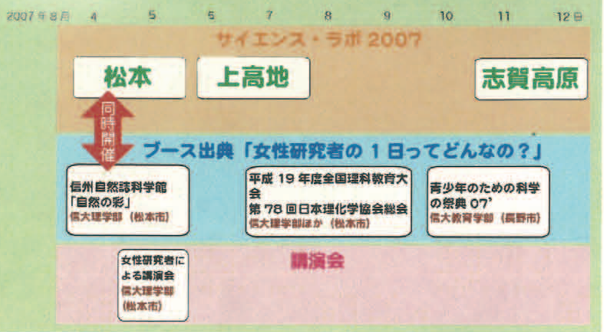
2）保護者の科学や自然に対する見識を深め，女性研究者を身近に感じさせることで，保護者が安心して子女を送り出せる理系像を構築する．

3）中高理科教員に，女子中高生の理系進路指導に役立つ情報を提供する．

対象

女子中高生・保護者・教員

実施内容



取組状況

サイエンス・ラボ　計36名参加

松本Aコース

「超伝導の不思議」

- 超伝導体の作成
- 作成した超伝導体を用いた実験

松本Bコース

「生物の多様性」

- 種多様性実験（大学そばの河原で，水生生物を対象に実施）
- 遺伝的多様性実験（受講生が採取した試料で遺伝子解析）

上高地

- 乗鞍高原・上高地のハイキングコースでの学習
- 高山植物と帰化植物の問題
- 火山地形と上高地の成り立ち
- 夜の懇親会（進路選択など）

志賀高原

- 志賀高原（白根山～草津温泉）
- 温泉と極限環境に生きる生物
- 火山地形と火口湖における実習
- 夜の懇親会（進路選択など）

講演会　約50名参加

「わたしはサイエンティスト - 女性科学者への道」

- 講演者5名（信大教員，信大卒業生など）
- 講演および質疑応答

ブース出展　「女性研究者の１日ってどんなの？」ポスター展示

- 信大3学部の教員6名の１日を紹介

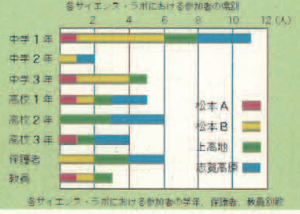
出展先

- 信州自然誌科学館「自然の彩」　来場者数　約1800人
- 青少年のための科学の祭典07'　来場者数　約2500人
- 平成19年度全国理科教育大会，第78回日本理化学協会総会　参加者数　約800人

アンケート解析結果

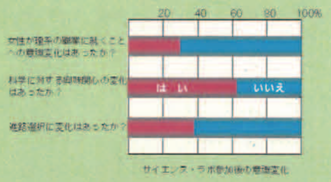
サイエンス・ラボ参加者のうち，31名から回答を得た．

参加者は，長野県の他，関東・東海・関西の広い範囲から来ていた．サイエンス・ラボin松本は県内参加者の割合が高く，上高地や志賀高原は県外からの参加者が半数以上を占めていた．他県でも，県内の自然に対して，興味・関心が高いことが伺える．また，宿泊が必ずしも必要ではないサイエンス・ラボin松本は，県内から気軽に参加することが出来た結果であろう．



学年別では，中学1年生の参加数が最も多く，ついで高校2年生であったが，他は大きな差はなかった．これは保護者参加型にしたため，中学1年でも参加しやすかったこと，また，中学生になり，将来に目を向け始める頃であることが要因であると考えられる．

教員の参加が3名あったが，いずれも単独での参加であり，その参加動機は，教材の参考にするためをいずれの教員も挙げていた．



サイエンス・ラボ参加後の意識変化

参加者のほとんどは，参加前から自然や科学に興味を持っているか，理系を進路に決めていた．そのため，サイエンス・ラボ参加後のアンケートで，進路選択に変化が起こったり，女性が理系の職業に就くことへの意識変化があったとする回答はあまり得られなかった．

しかしながら，科学に対する興味・関心の変化については，「もともとあったがさらに強まった」とする意見が多く見られ，本事業の効果が示された．

信州大学における女性研究者支援に関する取組み

最近の実績

平成17-18年度	学内保育所の拡大と整備
平成18年度	産休・育休中の代替教員の配置
平成19年度	女子中高生の理系進路選択支援事業の展開

中期目標

○全教員に占める女性の割合を15%にすること

○育児休暇の取得を推奨するための具体的方策の策定